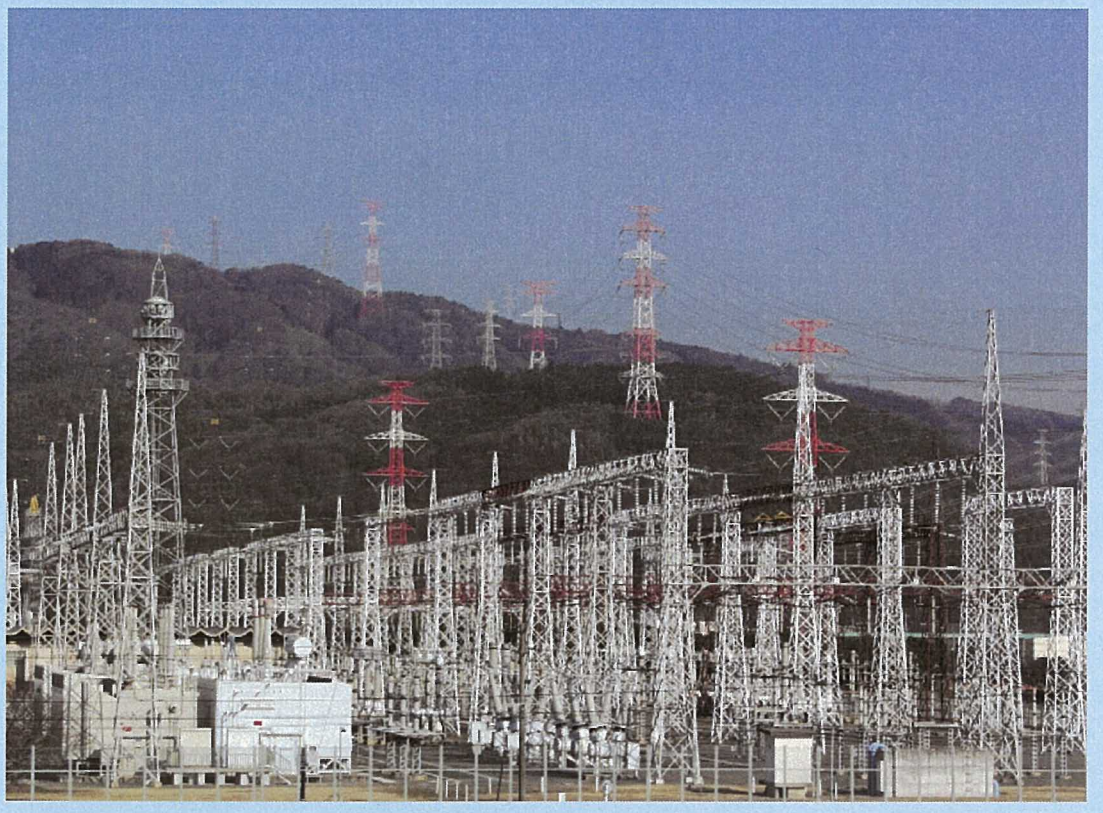
# CENTER NEWS

2010. 1
NO.281



KSRC
協同組合　関西地盤環境研究センター

# 表 紙 説 明

今回は電力用鉄塔の写真を集めました。

上　段　：鉄塔はセンター前の近鉄バス鳥飼営業所横の水路に聳えています。
この鉄塔は都市部ではめずらしく、下をくぐることができます。
ある晴天の朝、モノレール南摂津駅からセンターまで歩いていたとき、真っ白に輝いていました。ここで思わずパチリしました。
皆様もセンターにお越しの際、くぐってみてください、見方によっては鉄塔でなく、モニュメントにも見えます。

下　段　：この写真は高槻市上牧にある関西電力淀川変電所と山に延びる鉄塔群です。実はこの写真を撮りに行ったのではなく、例年３月の鵜殿ヨシ焼きを取りに行った際、朝日に映える状況が目に焼き付いて、思わずパチリしたものです。

（中山　記）

# 目　　次


新年明けましておめでとうございます。　佐藤　和志　……　１
第３０期臨時総会報告　……　４
１１月 定 例 理 事 会　……　６
１１月 主な会議・会合・行事　……　７
組合員技術者紹介コーナー（第６８回）　永田　静香　……　８
世界の地盤を楽しむ（後編）吉田　孟弘　……　１０
リフレッシュフォーラム『技術者のロマン（浪漫）』のお礼　……　１５
リフレッシュフォーラム『技術者のロマン（浪漫）』開催報告　……　１７
第３回ケータイフォトコンテスト作品　……　１９
編集後記　……　２０

# 新年明けましておめでとうございます
# 本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

専務理事　　佐藤　和志

30 年の節目の年が明けました。激動の社会にあっても時の刻みは不変です。

節目の年は、“これまで”を振り返り“これから”に思いを馳せる良い機会であり、新たな節目に向かって方向を定めて歩みだす年でもあります。30 年前、我々の先輩たちは、どんな社会で、何を想ってこの協同組合を設立したのでしょうか。

地質調査業は、戦後復興や列島改造を合言葉に急増した建設投資の担い手の一つとして、昭和 40 年代に大きな成長を遂げました。その後、1973 年と 1979 年の 2 度にわたるオイルショックに遭遇して建設投資が激減し、これを乗り切るために 1980 年に現在の協同組合が設立されています。このことは、平成 16 年「短期・中期経営方針検討委員会報告書」にも述べられており、「かって地質調査業が構造不況業となり、企業経営が困難になった頃、品質を落とさず健全な試験成果が得られ、企業の存続にもプラスとなる形態を取り戻すため、施設や設備それに人材を集約した協同組合構想が浮上し、現在に至っている。その決断と実行によって企業経営状況は見事に好転することに成功した。」とあり、単なる共同試験施設ではないことが分ります。

その後の建設投資は、1980 年代後半からのバブル経済の影響により再び戦後並みの急激な増加を示し好況に推移したが、1992 年をピークにバブル崩壊とともに減少の一途を辿っています。業界は、一昨年末のリーマンショックに始まる 100 年に一度の世界大不況、昨年の暑い夏の総選挙とそれに続く政権交代、事業仕分け・見直しなどがあり、一向に回復の兆しが見られず先行きは不透明な状況が続いています。業界を取り巻く環境は、設立前後の頃よりも厳しくなっています。

30 年後の今、激動の業界の中でその真価が問われています。時代は変わり障害要素も大きく変わっていますが、存在の意義が変化している事実と継続が社会的責任であることには変わりありません。前述の報告書では、「ここにいたる先人達の結束と情熱を思う時、今こそ組合を組織する全員が、組合中興のエネルギーを結集して組合への求心力を強めることが求められているような気がする。業界の結束と節度ある行為は業界発展の基本であり、再び組合員と組合の双方が共存共栄する環境を構築したいものである。」と訴えています。激動の今は、組合の「無用の用」と「不易流行」(注) を深く考えながら、この提案を重く受け止めて行動に移す時であると強く思わざるを得ません。

守口試験室の統合に伴う増改築も滞りなく終わり、見違えるように新装成りました。これを機に、センターは新たな動きを加えて、社会の変化に対応する形で動き始めました。施設の一元化による土質試験の効率化はもちろんですが、特に環境分析部門の充実は、今後への期待を担うのに十分なものになっています。いっぽう、品質保証と向上を確実にするために、土質試験分野としては先駆的にISO/IEC17025 試験所認定への積極的な取り組みを展開しています。また支援サービス事業についても、国交省近畿地方整備局の塚田企画部長をお迎えしてのリフレッシュフォーラムの実施や小委員会の活性化などで充実を図ってきました。しかし、経営の基盤になる収益事業の安定化は、組合員の皆様方のご協力なしには成り立ちません。

「三方よし」すなわち、お客よし・世の中よし・センターよしを合言葉に、発想の転換を図り、これまで以上に真心のこもった品質と満足を提供させていただくように精進します。

新たな年は、いろいろな意味で正念場の年になりますが、各社そして組合さらに業界の維持発展を期して、更なるご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

（注）次ページの【激動の時代をいきていくヒント】を参照下さい

【激動の時代を生きていくヒント】荻上紘一（東京都立大学元学長；2003、数学通信所載）

# 「無用の用」と「不易流行」

『老子』に「無用の用」という概念があります。一見役に立たないと思われるものが実は大きな役割を果たしているという意味です。『荘子』にも同じ趣旨の話があり、次のような問答が載っています。

恵子「あなたの話は役に立たない」

荘子「無用ということを知って、はじめて有用について語ることができる。大地は広大だが、人間が使っているのは足で踏んでいる部分だけである。だからといって、足が踏んでいる土地だけを残して周囲を黄泉まで掘り下げたとしたら、人はそれでもその土地を有用だと言うだろうか」

恵子「それでは役に立たない」

荘子「一見役に立たないように見えるものが実は役に立っているということが、はっきりしたであろう」

激動の時代を生きていく上で是非覚えておきたい言葉がもうひとつあります。「不易流行」: 松尾芭蕉が『奥の細道』の旅の間に体得した概念です。「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」即ち「不変の真理を知らなければ基礎が確立せず、変化を知らなければ新たな進展がない」、しかも「その本は一つなり」即ち「両者の根本は一つ」であるというものです。「不易」は変わらないこと、即ちどんなに世の中が変化し状況が変わっても絶対に変わらないもの、変えてはいけないものということで、「不変の真理」を意味します。逆に、「流行」は変わるもの、社会や状況の変化に従ってどんどん変わっていくもの、あるいは変えていかなければならないもののことです。「不易流行」は俳諧に対して説かれた概念ですが、学問や文化や人間形成にもそのまま当てはめることができます。

人類は誕生以来「知」を獲得し続けてきました。「万物は流転する」（ヘラクレイトス）、「諸行無常」（仏教）、「逝く者はかくの如きか、昼夜を舎かず」（論語）、「ゆく川の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」（鴨長明）など先哲の名言が示すように、森羅万象は時々刻々変化即ち「流行」しますから「知」は絶えず更新されていきますが、先人達はその中から「不易」即ち「不変の真理」を抽出してきました。その「不易」を基礎として、刻々と「流行」する森羅万象を捉えることにより新たな「知」が獲得され、更にその中から「不易」が抽出されていきます。「不易」は「流行」の中にあり「流行」が「不易」を生み出す、この「不易流行」システムによって学問や文化が発展してきました。一人ひとりの人間も「不易」と「流行」の狭間で成長していきます。

昨今は、「不易」より「流行」が重視される風潮が顕著です。社会、特に企業からは「即戦力になる人材」や「直ぐに役に立つ知識」が期待されるようになりました。しかし、「即戦力になる人材」は往々にして基礎がしっかりしていないために寿命が短いことが多く、「直ぐに役に立つ知識」は今日、明日は役に立っても明後日には陳腐化します。

激動する現代、目先の価値観にとらわれ、短絡的に実用的なものを求めがちですが、このような時期だからこそ「無用の用」や「不易流行」の意味をじっくりと考えてみたいものです。

# 組合員技術者紹介コーナー（第６８回）

所　　属：株式会社　関西地質調査事務所
氏　　名：永田　静香
生年月日：1972 年 10 月 24 日
出　　身：千葉県

関西地質調査事務所の永田と申します。この度、株式会社　ヨコタテックの川上さんからの紹介で、技術者紹介コーナーに執筆させて頂くこととなりました。

実は、私が本コーナーに登場させて頂くのは２回目でして、その時に自己紹介等自分自身のことについてお話させて頂きましたので、今回は何を書かせて頂こうかとても悩んでおります。

先に申しましたように、今回が２回目の登場で、その時は、以前所属していた会社からのエントリーでした。大学を卒業して 13 年勤務した会社を退職したのが昨年８月、先のことなど何も考えてなくて、暫くのんびりしようかと思い、とりあえず一週間ほど帰省しました。この時はまだ両親に会社を辞めたことは内緒にしておりました。帰省中に、父の還暦のお祝いがあったりで、心配をかけたくないという思いと、先のことを何も考えてない自分をどう説明したら良いのかという思いとで、話せませんでした。

さて、この先どうしよう・・・地質調査業から離れようかと思いながら、他に何が出来る？と、あれこれ考える日々。ハローワークには就活報告もしないといけないし。特に何する訳でもなく半月ほど過ぎた頃、同業のお知り合いの方からアルバイトの依頼があり、大阪へ戻り自宅にて個人開業の状態になりました。幸運なことに、数社からお仕事を頂戴し、業務が途切れることなく、３ヶ月ほど報告書の執筆したり、出張で現場の監理に行ったりで、今までとは違う何か新鮮で新しい発見もありました。先は見えない状態ながら、充実した数ヶ月を過ごした頃、再就職の話が舞い込み・・・いろいろ考えた末、現在に至っております。両親には再就職が決まった後、きちんと話はしました。

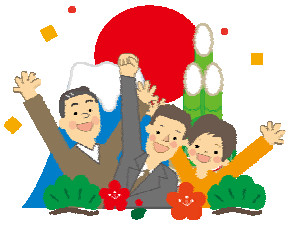
再就職をして約１年、所変われば品変わるで、10 年以上してきたことなのに、勝手が違い戸惑うことも多く、気持ちは１年生の私です。

この１年を振り返ってみて、痛切に感じることは、全てが人と人との繋がりなのだということです。前社を退職すると決まった時から現在に至るまで、多

くの方に気遣って頂き、私はここまで来られました。よく、「運が良い」と言われますが、決して、そのような簡単なことではないと思っております。今まで培われてきた関係、新しく形成された繋がり、私はそれを大事になくては成らないという想いと、次は、私が皆様に恩返し出来るように成らなくてはいけないという使命を胸に頑張っていこうと思います。

私から次にご紹介させて頂きます方は、株式会社　阪神コンサルタンツの奥田さんです。奥田さんは同業の知人を介してお知り合いになり、ご出張中とのことでしたが、今回、私からの無理なお願いをきいて頂きました。

## *大集合!!元気な人たち*



☆　第３回　ワイガヤ広場

**開催日時：平成 22 年 1 月 14 日(木)　17 時～**
場　　所　：協同組合　関西地盤環境研究センター　３階　会議室
連 絡 先：Tel 06-6827-8833
E-mail：jyoho@ks-dositu.or.jp
参 加 費：￥500／人（ビール代　つまみはセンター供出）
**申込期限：平成 22 年 1 月 8 日(金)　18 時迄**

参加をご希望の方は上記の日時にセンターにお集まり下さい。なお、事前に連絡先まで出席をお伝え頂きますと助かります。飛び込みでも構いません。大歓迎です！！

皆様、お誘いの上、当センターまでお越しください。

前回までの楽しい様子はこちらまで！
**http://www.ks-dositu.or.jp/**

# 世界の地盤を楽しむ（後編）

アース技研株式会社
吉田孟弘

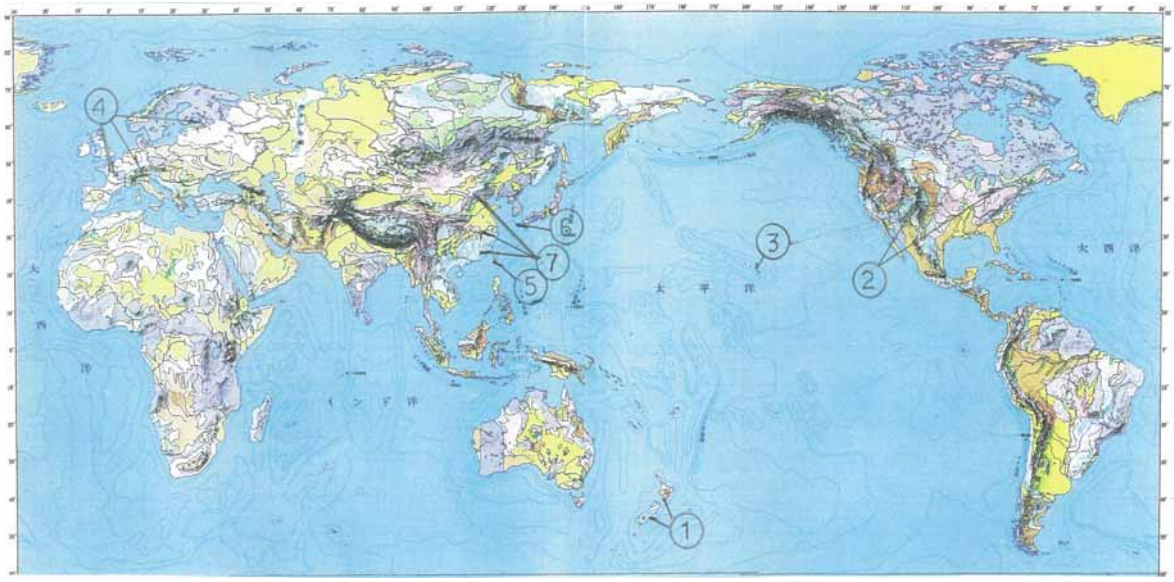
近年、世界の一部を旅する機会に恵まれ、地質屋の視点から地盤状況を観察し、旅の楽しみが倍増しました。

将来は、旅の途中で機内から見ることの出来た眼下に拡がったロッキー山脈の地形とこの中にあるイエローストーンなどの U.S.A 国立公園、湖の多いフィンランドのヘルシンキを訪れてみたいと思っています。

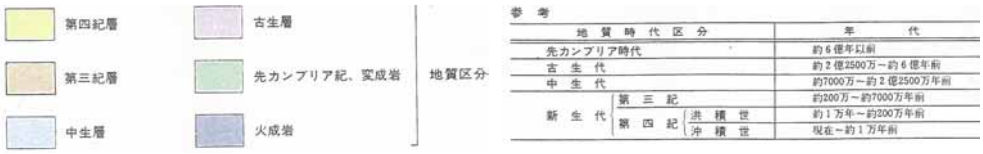
また、地盤工学的に、関心が湧くのは砂漠地帯に構築されたラスベガスの建物や周囲の戸建住宅の基礎工と安全対策です。

世界地図を広げていつか訪れてみたいと場所に思いを寄せています。

【旅は私にとって精神の若返りの泉だ：アンデルセン】




図中の数字は紀行地を示す




世界の地質図　　“世界地図”（国際地学協会発行より）

## ③ Ｈａｗａｉｉａｎ　Ｉｓ．

写真－1

**写真－1**
オアフ島
　ダイヤモンドヘッドは、
　溶岩流が海側に向け分布。

## ④ Ｓｗｉｔｚｅｒ Ｌａｎｄ ～ Ｆｒａｎｃｅ

**写真－2**
フィンランド上空より
　湖水が多く、湿地帯の地質と
　構築物の基礎が気にかかる。

写真－2

**写真－3**
ローザンヌのレマン湖
　有名人の別荘が多く、
　有名なコーヒー店もある。
　対岸はモンブランの雄姿。

写真－3

**写真－4**

マッターホルン(4,478m)

晴天に恵まれて、終着駅より次駅まで散策し、マッターホルンを眺めながらコーヒータイム。

岩盤は変成岩が主体。

登山電車の軌道技術に驚嘆！

写真－4

写真－5

**写真－5**

ユングフラウの氷河

雪洞を抜け約100mのエレベーターで山頂に。眼下に氷河谷。

写真－6

**写真－6**

アイガーの北壁

クライマーなら一度は挑戦してみたい岩壁。

付近には新田次郎氏の碑もある。

**写真－7，写真－8**

フランス･パリのセーヌ川クルージング

宮殿・美術館などが建ち並ぶ。

写真－7

写真－8

③ 台湾

**写真－9**

花蓮(ホクリエン)

石灰岩の峡谷。

花蓮等には少数民族が多い。

写真－9

**写真－10**

基隆(キールン)

砂岩?浸蝕により奇岩が多い観光地。

写真－10

③ 韓国済洲島

写真－11

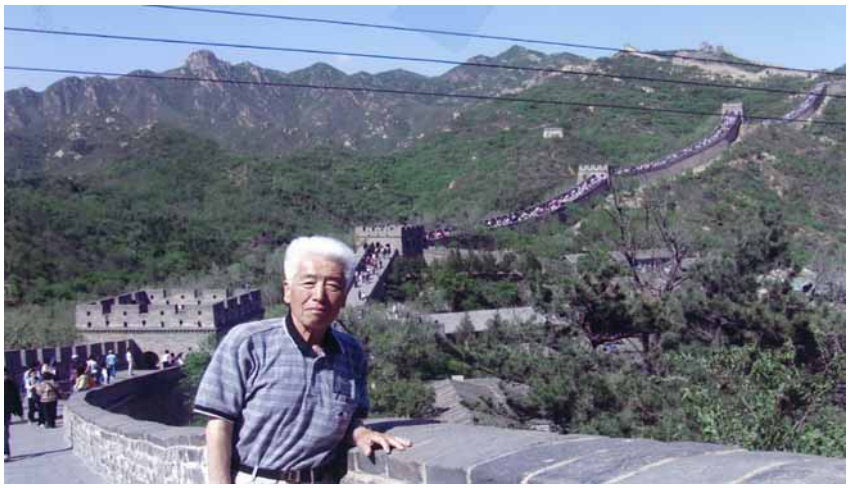
**写真－11**

済洲島の観光案内図

済洲島は玄武岩による火山島。

島根県大根島と同じで島の中央は水が無く、干潮時には島の周囲より湧水があり海岸部には集落が多い。

③ 中国



写真－12

写真－13

写真－12

万里の長城

城壁の岩質はいろいろ。

写真－13

厦門(アモイ)のコロンス島

花崗岩が多く、福建省の石材は日本等に多く輸出されている。

写真－14

上海市中心実験室

軟弱地盤地帯で圧密試験機が多い。

圧密沈下の解析？

写真－14

## *満 員 御 礼！！*

リフレッシュフォーラム***『技術者のロマン(浪漫)』*** のお礼

標記のフォーラムは、12 月 1 日に 120 名ほどの、然も学生を含む 20 歳代からまだまだ現役の 60 歳以上までの幅広い年代にわたる皆さんの参加を得て、盛況のうちに終わることが出来ました。関係者の方々のご協力・ご支援、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

当日は、国土交通省近畿地方整備局企画部長の**塚田幸広**氏および財団法人建設工学研究所理事長の**櫻井春輔**神戸大学・広島工業大学名誉教授をお迎えして、明日への活力そして未来につながる議論が展開されました。内容については、別掲の「日刊建設工業新聞」の通りです。また、第 2 部の交流会では 70 名余りの皆さんが、時の経つのも忘れて、パネラーや参加者との交流を通じてロマンの深耕を図っておられました。

今後も、協同組合の支援サービス事業の役割である「技術者交流や人材教育を企画運営することで、人的資源の育成・価値向上を図り、組合および企業の認知度や成果品の信頼性向上を推進する」を果たすために、タイムリーな企画の提供を続けていきます。どうか、今回同様のご協力・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

日刊 建設工業新聞 12/3 木曜日 2009年(平成21年)

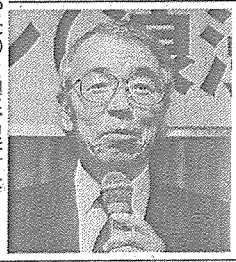
# 土木の可能性議論

## 関西地盤環境研究センターがフォーラム

協同組合関西地盤環境研究センター（高村勝年理事長）は1日、大阪市北区のラマダホテル大阪で、リフレッシュフォーラム「技術者のロマン（浪漫）」（共催・関西地質調査業協会、協賛・地盤工学会関西支部、土木学会関西支部）を開いた＝写真。厳しい環境が続く中、明日への活力や未来につながる議論をしようと開いたもので、当日は技術者や研究者、学生ら120人以上が参加、土木技術者のあり方や土木の可能性を説く講演・意見交換に熱心に耳を傾けた。

フォーラムではまず、塚田幸広近畿地方整備局企画部長が「まちづくりの指南役～地域を活かす技術者達～」をテーマに基調講演し、これからの技術者に求められる役割について説明。塚田部長は「行動する技術者」をキーワードに、国土・づくりや地域の課題解決・再生に取り組む土木技術者の事例を紹介するとともに、「専門分野に軸足を置きながらも、そこに固執しないことで新しい発見がある」と述べ、産学連携・他分野連携の重要性を説いた。

講演する塚田企画部長㊤と櫻井理事長



続く特別講演では、櫻井春輔建設工学研究所理事長（神戸大学・広島工業大学名誉教授）が「土木のロマン」をテーマに、市民工学としての土木の可能性を解説。この中では「土木の使命は時代とともに変化していく。土木には無限の可能性がある」として、発想転換の必要性を強調したほか、具体例としてトンネルと橋梁・斜面の技術が融合したプロジェクトや、土木と気象、防災・福祉、スポーツ・健康、芸術、心理学が連携している取り組みを紹介した。

パネルディスカッションでは、最初に話題提供として西形達明関西大学環境都市工学部准教授、同センター技術者交流会コーディネーターの鏡原聖史氏（ダイヤコンサルタント）、同センター副理事長の本田周二氏（日建設計シビル）が取り組みや経験談を披露。この後、佐藤和志同センター専務理事のコーディネートで、櫻井氏、西形氏、鏡原氏、本田氏、高村理事長、柳浦良行関西地質調査業協会理事長が海外・民間への事業展開の可能性などを語り合った。

# リフレッシュフォーラム*技術者のロマン(浪漫)*開催報告

協同組合　関西地盤環境研究センター
所長　中山義久

平成 21 年 12 月 1 日、「リフレッシュフォーラム技術者のロマン(浪漫)」がラマダホテルに於いて開催され、技術者のロマンを求めて120名あまり(事前受付者 100 名)の参加があった。

第 1 部の【基調講演】では国土交通省近畿地方整備局塚田幸広企画部長がまず社会資本を取り巻く情勢の環境変化と、今後その量の充足と質的向上が求められていることを説明した。そして、行動する技術者＝「まちづくりの指南役」がこれらの変遷を担っていくことが必要と述べられた。その行動する技術者の紹介として、近畿地区および全国各地の様々な領域で「まちづくりの指南役」として活躍されている方々を取り上げ、その取組み方と熱いロマンを企画部長の経験をも取り混ぜ、分かりやすく説明されていた。

つぎの、【特別講演】では（財）建設工学研究所櫻井春輔理事長が「土木のロマン」について、こんな時代にこそ、土木の中の境界あるいは土木と他分野の境界に、活躍のチャンスがあると述べられた。その例の一部として、櫻井理事長が現在進められているプロジェクトを１つ１つ丁寧にポイントを押さえた説明をされた。

写真－1　塚田企画部長の熱心な講演

写真－2　櫻井理事長の講演の様子

写真－3　パネルディスカッションの模様

写真－4　参加の大学生

写真－5　和やかな雰囲気の交流会

第 1 部の【パネルディスカッション】は 4 名のパネラー(関西大学西形達明准教授、(株)ダイヤコンサルタント鏡原聖史課長代理、(株)日建設計シビル本田周二部長、櫻井理事長、当センター髙村勝年理事長、関西地質調査業協会柳浦良行理事長)とコーディネーターとして当センター佐藤和志専務理事が参加した。各パネラーに土木技術者としてのご自身の経験と抱いているロマンを熱く語って頂いた。中でも印象に残ったこととして、本田氏は 20 数年前のご自身の行動のエピソードを挙げられていた。当時も今と変わらないが、業務から得られた貴重な知見は企業秘密と守秘義務により公表しないのが通例である。それを敢えて発注者を説き伏せてまで論文として公表したその当時の熱意は技術者として漲る「ロマン」が源であって、今も変わらないと熱く語られたことである。

第 2 部の【交流会】はフォーラム第 1 部の参加者の 7 割近くの参加を頂き、執りおこなわれた。ロマンを語る交流会だけに、宴のあちこちに「ロマン」の輪が浮かんでいたように見えた。その中には写真－4 のように今後の土木業界を担う大学生の参加もあり、かつちょっとしたパフォーマンスを交えたトーキングを披露し、将来の業界人材となる片鱗を感じた。交流会は時間いっぱいまで続き、参加者たちの満足げな笑顔で本会は終了した。

最後に 16 ページのようにマスコミでも取り上げられ, 関心の高さが伺われるフォーラムであった。

# 第3回　ケータイフォトコンテスト

1．秋の大山

2．2009　祭り

3．祭りだ～ワン

4．ぶどう狩り

5．秋晴れ

6．2009　豊作

7．　池

8．切ない夕暮れ

# 編　集　後　記

先日、リフレッシュ・フォーラムが開催され、講師の先生から土木業界だけに目を向けていないで、もっと広く世間を見渡して、土木の境界付近の業種や異業種との連携をはかることで、現在の閉塞感のある業界から抜け出すことも可能であるとの提言がありました。また、自分の境遇が悪い、自分ばかりしんどいとの思いがある、生活感を感じられないのは誰それのせいであると思いがちになります。こんな時代ですから業界に生きる人間として、気持ちの切り替えを行い、少しでも明るく生き甲斐のある業界生活をおくりましょうという主催者の意図がありました。

さて、家庭生活あるいは会社生活において、大げさに言うとまさに気の持ちようが人生を変えるかもしれません。ある日、新聞の図書広告に「人生の、そ、わ、か」という本のタイトルが目に止まりました。広告欄の角に小さく「そ」、「わ」、「か」の意味が記載されておりました。「そ」: 掃除、「わ」: 笑い、「か」: 感謝でした。具体的な内容を知りたくて本を求めました。読んだ感想として、宗教論ではありませんが、「そ」、「わ」、「か」を実践すると、神様が見ていらっしゃって、その人に福をもたらすというような内容であったと思います。神様が居る・居ないは別として、「そ」、「わ」、「か」実践することにより、その効果により人間の心が明るくなり、かつ穏やかになり、結果としてその人が幸せを感じて生きることができるのだと理解しております。

「信じるものは救われる」のことばのごとく、皆様の中にも何かしらを信じて実践されている方も居られると思います。どんな人も不幸に成りたい人はいないとおもいます。こんな時代です、気持ちを替えて「信じるものは救われる」を実践し、さらに明るい生活を送りたいものです。

(Y.N 記)